

## 「行革甲子園 2018」エントリーシート

### 【取組の内容】

#### 1 取組事例名

- ・大津町オリジナル婚姻届を作ろう

#### 2 取組期間

- ・平成 30 年 1 月～4 月 2 日

#### 3 取組概要

- ・プロジェクトは平成 30 年 1 月から開始。戸籍担当者が役場有志でオリジナル婚姻届を作成したいと住民課長に相談。予算のない中、「地域のためになれば」と地域おこし協力隊を巻き込み、大津町の雰囲気にあっているのをぜひ作成してもらいたいと町内企業である(株)ナインフィールドさんにも協力をしてもらうことに。
- ・婚姻届、出生届、婚姻届（記念用）、出生届（記念用）、記念スタンプを作成。

#### 4 背景・目的

- ・子育ての町として人口が増え続けている大津町では、年間、婚姻届約 200 件、出生届約 400 件の提出があっている。若手職員が同世代の住民の新しい門出を祝いたいと、平成 30 年 1 月に役場庁舎内にフォトスポットを作成したのが始まり。
- ・職員同士の中で、「町独自の婚姻届があってもいいのでは」という話があがった矢先、市町村単位でのオリジナル婚姻届が県内に当時無かったことと議会でも同様の意見が上がったため、プロジェクトを作ることになった。

## 5 取組の具体的内容

- ・平成30年1月～3月の間、若手職員を中心に業務終了後に集まり、全5回の会議を開始。延べ51人が参加した。
- ・予算が無かったこともあり、当初自身らで作ることも考えたがクオリティの問題で頓挫。
- ・住民代表として地域おこし協力隊に声をかけ、住民目線での意見をもらう。また、ナチュラルテイストで「九州の食卓」という季刊誌を発行している株式会社ナインフィールドに協力隊から協力の依頼。
- ・オープン参加のプロジェクトチームを作り、デザインをすることに。
- ・当初は町独自の「婚姻届」「出生届」のみ作成予定だったが、プロジェクトチーム内で「婚姻届は手元に残らないので記念用が欲しい」、「出生届も手元に残るものではないので記念になるものが欲しい」という意見があり、「記念用婚姻届」及び「命名用紙」も併せて作成することに。
- ・また、「記念用の婚姻届や命名用紙に押印できるような記念スタンプを作ってはどうか」という意見により、庁舎内で届出者が自由に押すことができるオリジナル記念スタンプも作成。さらに、婚姻届を提出した人をお祝いするため、繰り返し使えるくす玉も作成した。



会議の様子



作成に関わったコアメンバー



出来上がった出生届⑤と婚姻届⑥



オリジナル婚姻届提出第1号のご夫婦

- ・その後、町の広報やホームページに掲載したほか、プレスリリースにより、地元新聞社、テレビ局、地元企業などにも取り上げていただき、好評を得ている。出生届は地元産婦人科にも配布した。

## 6 特徴（独自性・新規性・工夫した点）

- ・良くある「ご当地キャラクターをつかったグッズ」に終わらない独自の雰囲気を出すため、イラストレーターの手描きテイストを採用、唯一無二の作品に仕上げた。
- ・地域おこし協力隊への協力を依頼することで「資金面の協力」、「住民としての意見」、「町内企業の協力」を引き出すことができた。
- ・若手職員の「考える力」を引き出し、業務外での住民のために活動できる場をつくることができた。
- ・婚姻届は、若い女性をターゲットにかわいらしく使いやすいイメージのもので、なおかつ、大津町のことを結婚で初めて知る人のために大津町を表す要素をイメージイラストとしておしゃれに配置している。
- ・出生届は、記入する人が一瞬しか見ないものだからこそ、職員らのお祝いのメッセージが端的に伝わるための工夫を施した。町のキャラクター「からいもくん」のイメージを踏襲しつつ、新しい解釈を加え、特別な日への新しい提案をしている。

## 7 取組の効果・費用

- ・町としての支出は「印刷費」約 40,000 円のみ。
- ・5 月 10 日現在までに約 30 件の問い合わせ、窓口配布は婚姻届約 50 枚、出生届約 20 枚。出生届は2つの産婦人科に合計 200 枚配布している。また、大津町に提出された婚姻届 16 件の内 5 件と出生届 29 件の内 4 件がオリジナルの届書を使用したものであった。問い合わせ、窓口配布、届出ともに件数は増加しており、今後さらに増加する見込み。

## 8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

- ・町キャラクターの「からいもくん」のイメージ戦略との折り合いの問題。
- ・デザインを1から起こしているので企画段階での苦労。

## 9 今後の予定・構想

- ・町の要素をちりばめた婚姻届の要素説明のホームページなどを作り、初めて大津町を知る人のための解説ページをプロジェクト継続でつくる。
- ・「わがこと」を考える若手職員の会を開催し、業務外でできることを考える。

## 10 他団体へのアドバイス

- ・メインターゲットを若い世代の住民にしぼることで、プロジェクトメンバーの世代とマッチさせ、「自分だったらこれで提出したい」という意見を出し合うことにより、若手職員が町の課題を「わがこと」としてとらえ、住民目線を育てるトレーニングの場所として活用することができる。
  - ・地域おこし協力隊の活躍の場にもなるので、実績を積むための場所になる。
  - ・職員同士の仕事以外での意見交換の場所にもなるので、職員同士のつながりをつくることで通常業務の円滑化にもつながる。
- 以上の点から、他の市町村でもぜひ取り組んでいただきたいです。

## 11 取組について記載したホームページ

大津町ホームページ内

[http://www.town.ozu.kumamoto.jp/ki\\_ji0037113/index.html](http://www.town.ozu.kumamoto.jp/ki_ji0037113/index.html)